



読書の秋です

10月になり、だんだん朝晩が涼しく感じられるようになってきました。秋はスポーツの秋、食欲の秋、と楽しいことがたくさんあります。そんな中でもお勧めは読書の秋！！

この秋は、ぜひ読書を楽しみましょう。

なぜ「読書の秋」と言われるのか？

夏の暑さが落ち着いて夜が過ごしやすくなり、本を読むのに最適な気温になるのが秋なのです。人が集中するのに最適な気温は18度前後と言われており、秋は梅雨がないので湿度も高くなく、集中して本が読めるのです。

「読書の秋」の由来として、古代中国の詩が元になっているという説が有力とも言われています。西暦700年代後半に生きた韓愈という人が詠んだ「灯火親しむべし」という詩があり、「秋は過ごしやすい季節で、夜には明かりを灯して読書をするのに最適だ」という意味があります。そしてこの詩を夏目漱石が『三四郎』という小説で取り上げ、そこから読書の秋が広まったと言われています。

参考URL

<http://afun7.com/archives/5928.html>



図書委員のおすすめ本

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』東野圭吾 著 角川書店

この本は、悪事を働いた少年3人が忍び込んだ廃屋から始まります。そこは過去と未来が手紙でつながる不思議な雑貨店。かつて、悩み相談を請け負っていたお店でした。廃業しているはずの店内に、突然シャッターの郵便口から悩み相談の手紙が落ちてきます。時空を超えて過去から投函されたのか？そして3人はどうなるのか・・・。

この本は、「それがこうつながるのか！」という驚きがたくさんあって、すごく面白いです。東野圭吾さんによって人間の人生がとてもリアルに描かれている分、より感動が深まるのだと思います。また全体を通してみると、非常にさわやかで希望の持てる話だと思いました。

さらに、この作品は映画化され、現在公開中です！

読後はとてもいい気分になれると思うので、ぜひ読んでみてください。

入り口前の展示ケースです。

今回のテーマは「書物をめぐる物語」。

読書の秋にちなんで、本に魅せられた人の話や、書店・図書館が舞台のファンタジーなどを紹介しています。

